



ヒロシマの歩み

まつかわ はづき
弥富北中学校 松川 葉月

【80年前の事実】

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分は、月曜日の朝でした。アメリカのB-29爆撃機が原子爆弾「リトルボーイ」を投下し、広島は一瞬で焼け野原となりました。私たちは平和記念資料館で数多くの展示を見て、原爆の被害の大きさを改めて痛感しました。しげるちゃん弁当や黒焦げの三輪車などの展示からは、小さな子どもたちの命も多く失われてしまったことが伝わり、悲しい気持ちになりました。

また、被爆ピアノコンサートでピアノの演奏や平和の歌を聴きました。その音色や歌声からは、言葉では表せない平和への強い祈りを感じました。「被爆ピアノの物語」というテーマの演奏を聴いたとき、ピアノが見てきた80年前の広島の光景が、目に浮かんできました。

【祈りを未来へ】

平和記念公園には、戦争や原爆の被害を決して忘れないようにという思いが込められたものが数多くあります。原爆で亡くなった人々の名前が記された「原爆死没者名簿」には、白紙のページがありました。それは、名前の残らなかった人々の存在も忘れないようにという願いが込められていることを知りました。

また、「平和の灯」は、核兵器が世界からなくなる日まで消えることはありません。平和記念公園は、今も、そしてこれからも、戦争と原爆のない世界を訴え続けていく場所だと思います。私たちは、その思いをしっかりと受け止め、平和への祈りを行動へと変えていく必要があると強く感じました。



唯一の被爆国という自覚をもって

もりやま ゆうな
弥富北中学校 森山 優奈

【原爆の恐ろしさ】

原爆が投下されて一瞬のうちに大きな被害が広がり、人々の当たり前の生活は消し去られました。体験談によると、真っ青な光が見えたと思った次の瞬間、建物が倒壊し、多くの人が下敷きになったそうです。また、避難している途中には、皮膚がただれて溶けている人や、歯や目がむき出しになっている人の姿もあり、人間とは思えなかったと語られていました。たとえ生き延びたとしても、その後、多くの人ががんや白血病などの病気で苦しんだそうです。たった一発の原爆によって、これほど多くの命が奪われ、今なお苦しみ続けている人がいるという事実を受け止め、私たちは平和な未来を自分たちの手で創っていかなければならないと強く気付かされました。

【ヒロシマの復興】

ヒロシマの復興や平和への取組は、たくさんの人々の力によって進められてきました。海外からは、原爆で家を失った人々のために住宅を建てるなどの支援が行われ、国内では、被害を受けながらも生き残った原爆ドームや元安橋などを保存し、原爆の恐ろしさを決して忘れないようにする取組が続けられています。

また、市民や自治体による活動があることも分かりました。例えば、「日本原水爆被害者団体協議会」は、広島や長崎の被爆者による全国組織で、核兵器のない世界を目指し、核兵器が二度と使われてはならないことを訴え続けてきました。その活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞しています。私も、唯一の被爆国の一員であるという自覚をもち、平和に近づくために自分にできることを考えていきたいと思いました。





弥生小学校



学校ホームページ



本校は、校訓「やさしく よく考え いのちを大切にする」を掲げ、「一人一人の強みを生かした学びと生活を通して、ウェルビーイングの向上を目指す」を合言葉に、日々の教育活動を展開しています。



きずな授業&きずなタイム

～異学年交流での学び合い～
本年度も「きずな授業」に取り組んでいます

2年生&5年生(特別活動) HTN+P すごろく

2年生と5年生で、やよいきずなフェスの思い出をもとにすごろくを作りました。完成したすごろくを使い、体育館できずな班に分かれて遊びました。フェスでの思い出を共有しながら、楽しく活動する様子が見られました。



1年生&4年生(図画工作科) ペったんコロコロ

1年生と4年生で、絵の具を使って混色や模様作りを楽しみました。2学期の作品制作に向け、1年生が絵の具の使い方をマスターできるよう、絵の具の準備から片付けまで、4年生が優しく教えてくれました。1年生の少しはにかみながらも嬉しそうな笑顔が印象的でした。



やよいっ子きずなタイム
全校児童が、24のきずな班に分かれて、
いろいろな活動を通して交流を深めています。

【あそびの会】



【学校ピクニック】